

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2674000209		
法人名	社会福祉法人 未生会		
事業所名	グループホームラポールしらかば 2F		
所在地	京都市西京区榎原盆山15-8		
自己評価作成日	平成30年2月1日	評価結果市町村受理日	平成30年6月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人理念「帰家穩座」は、旅から帰った家人が穏やかに座れる家庭を作ると、事業所の方針である「一人一人の生活リズムを尊重する」を基本に普通の「家」「家庭」のような居場所を提供することを目標にしている。
 ただ介護をするという視点ではなく、暮らしの中でその方の困っている事や今までは出来ていた事が難しくなってきた事を支援することでなるべく本人にさせていただくという想いで日々関わっている。利用者、家族、支援者が互いに信頼関係を築き共に暮らしているという事を実感していただける環境作りを職員全員心掛けている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JizyosyoCd=2674000209-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪府北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成30年3月9日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	皆で話し合い、「一人一人の生活リズムを尊重します」を事業所の理念として利用者の思いをくみ取り全員で共有し実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に少しでも参加できるよう、地域の方と連絡をとったり、スーパーや道などでお会いした時は挨拶やお話などしている。 また、行事ごとに参加を呼び掛けて地域の方々にお手伝いして頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月1回の音楽の時間を利用し、地域の方に施設のこと、認知症のことを知って頂けるよう毎月、地域の行事に参加し音楽の会の参加を呼び掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、事業所としてのサービスの取り組みや状況や問題点などを報告し意見交換してサービスの向上に活かしている。また、会議に参加できない家族の方には、書面にて報告しているが来園時に家族の方からの意見を聞いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の議事録を直接届けたり、行政主催の会議に参加し介護保険・高齢者福祉に関する情報提供等の連携を図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束がなぜダメなのかを理解できるよう内部研修を行い意見交換し、玄関の施錠もしないよう取り組んでいる。 また、チームで常に話し合い、利用者が快適に生活出来るよう取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等で虐待の防止を学ぶと共に職員同士、言動に注意を払い、1人が抱え込まないように皆で協力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を与えてもらっている。後見人に直接相談して活用方法を聞いて家族に伝える支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文書や口頭で説明し理解していただいている。また、不安や疑問点などがあれば、分かり易く説明し理解、納得していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月個別に近況報告を送付したり来園時に口頭でも近況報告したりし支援について家族の方が気軽に意見・要望を言いやすいようにしている。アンケートを実施して意向や改善案等聞く機会を設けている。運営についての情報等は文書やしらかば通信で公開している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1回以上、管理者が職員に個別面談日を設け、意見や提案などを聞いている。また、職員会議等、どんな事でも聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人本部で毎月1回の業績検討会議にて状況報告し改善案等を検討し検討結果を事業所に持ち帰り職員のやりがいや向上心が持てるように就業環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部・内部研修開催を全員が把握出来るよう回覧で案内する。希望者になれるべく参加できるよう勤務の調整をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会や協会等に入会して定期的に会議・勉強会・研修・親睦会に積極的に参加し交流を図っている。また、近隣の施設との交流を深めるために互いの行事ごとに参加し合い意見交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	電話による相談を始めとして、自宅・施設・入院先等に訪問したり、見学时に本人や家族の思いや希望等を聞き、生活歴等の情報を収集してアセスメントしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話に耳を傾け情報収集しながらアセスメント、ケアプランを作成し、家族の要望等を反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人および家族の意向を聞き、他のサービスについても説明して希望の実現に向けた様々なサービス利用の選択肢を提示している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の得意分野を見極め、本人の意思を尊重しながら出来ることや興味のあることを手伝ってもらい笑い合いながら楽しい日常生活を送っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に家族との連絡をとり、良いことも悪いことも正直に今の生活状況を報告し、家族の思いを尊重しながら本人にとって何が一番良いのか相談し共に支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親戚との外食や外泊、旅行やお墓参りなど出来ることへの支援を大切にしている。また、家族、親戚や友人の方が面会された時には、居室にてお茶など飲みながらゆっくりした時間が取れるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人、合わない人の把握をし、どの方にとっても安らげる自分らしい生活が出来るような空間作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りで退去された後も家族が遊びに訪ねてきたり、家族会への招待をしたりと今も交流が続いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	無理強いするのではなく、本人のやりたいことを尊重したり、本人の思いに寄り添いその人らしい生活をして頂くよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、利用されていたサービス事業所等から情報提供してもらい今までの馴染みのある生活が出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中、1つ1つの言動や心身状態などの変化を見極め生活記録や申し送り等を活用しチームで情報の共有をしている。また、現状の課題点を話し合いケアプランに繋げている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の言動や心身状態などから本人が何に困っているかスタッフで話し合い、家族と一緒に解決方法を考え一番必要とされることを3カ月ごとにモニタリングし介護計画に取り入れている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を全員で共有し、今、その人にとって何が必要なのか会議等に関わらず、必要な時に話し合い見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々変化する状況を、その時々で話し合いながら柔軟な支援やサービスを行っている。		

グループホームラポールしらかば 2F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事ごとや他事業所の行事等に参加し、本人が出来る力を発揮しながら交流を深め楽しいと思ってもらえるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に協力医がいる事をしっかり説明し、同意を得ている。また、専門医を希望される場合は、家族とともに協力し、家族が同行出来ない時は、スタッフが同行している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活を基に月2回の訪問看護時に利用者の状態、変化、気づきを報告し医師との連携をはかっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前は協力医からの診療情報提供や生活面での情報提供をする。退院時には、家族・病院関係者とのカンファレンスに参加して退院後の生活がよりよくなるよう話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族・協力医・職員等と話し合い意向を聞いて事業所の出来る事出来ない事を説明し、方針を決めてもらい情報を共有し、なるべく希望に沿えるよう取組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の備えとして緊急マニュアルを作成し、全員がそのマニュアルに従って行動できるようにしている。 また、定期的に対応の訓練も行い、マニュアルの見直しも必要に応じて行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的避難訓練を行い、不都合がないか常に改善策を議論し近隣の方の協力をも得られるようお願いしている。備蓄品の点検も年1回行っている。また、消防士の方から災害対策について話を聞き勉強会に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	まだまだ自分でできるという誇りやプライドを傷つけないように、法人主催の接遇についての研修を受講し言葉かけに気を付けるよう努めている。また、プライバシー保持にも気を付けトイレへの声掛けにも配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思が伝えられるように働きかけ、本人の思いに沿えるよう支援している。また、自己決定が難しい時は、表情や言動等で感じ取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の思いを尊重しそれに沿えるよう支援している。また、優先順位をチームで常に話し合い利用者の思いを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を自分で選ぶことのできる方は選んで頂き、迷われる方には一緒に相談しながら決めていくようにしている。 訪問美容を取り入れ、ヘアスタイルも自分で決められる方は、美容師に伝えて頂き、決められない方は、似合うように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	何が食べたいか聞いてみたり、決められない時は広告を見たりして一緒にメニューを決め出来る範囲で調理を手伝ってもらったり、出来上がる事を楽しみにしてもらっている。また、好き嫌いの多い方には、事前にメニューを知らせ別メニューを提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えながら個々の食べる量や食事形態を考え、また個々によって1回の水分摂取量を見極めながら、一人ひとりにあった摂取を支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	清潔保持のため歯磨きの声掛け、見守り、または介助にて支援している。 義歯の方は就寝前のポリドント使用も行っている。また、歯科衛生士による1人ひとりに合った口腔ケアを教えてもらいながらケアしている。		

グループホームラポールしらかば 2F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗を減らすため個々の排泄時間を見極め、適度な間隔でトイレへの声掛けや見守りを行っている。また、便失禁時には自尊心を傷つけないように細心の注意をはらう。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の食事を多く取り入れ栄養のバランスに気を使い、水分補給もかかさないようにしている。 ラジオ体操や適度な運動を取り入れている。 また、食後のトイレ誘導も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	できるだけ希望に沿えるよう、入浴のタイミングをはかった支援をしている。 本人の好まれるボディソープやシャンプー、リンスを使用してもらう。また、入浴後も髪の設定も気に入ってもらえるように努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠くなられているのを見極め、その時々で休息の時間をとれるよう支援している。 夜間、眠る事に不安がある方には、職員が常にいることを伝え安心していただけるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の間違いないよう何重もの確認と、服薬状況を全員が把握できるよう共有体制をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事をやってもらう事で張り合いを感じてもらえるようにしている。また、やってもらった後は、必ずお礼の言葉を伝える。 気分転換に本人の意思を尊重しながら外食や喫茶、買い物、散歩などに出掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	できるだけ季節にあった外出をするようにしている。外出時、家族の希望があれば、参加していただけるよう支援している。 また、家族で旅行や外食に出掛けられるよう支援している。		

グループホームラポールしらかば 2F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時には本人の財布の中に本人確認の上、決まった額のお金を入れ持って行ってもらい、本人が支払えるように見守り支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人からの電話は本人が対応できるように支援している。 手紙やハガキなどの郵便物も、本人が受け取り確認して頂く。宅配での贈り物が届いた時は、本人が電話し御礼を伝えられるように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の温度、湿度、明るさは常に気を付け、時には換気を行い快適な空間を心がけている。また、敷地内に咲く季節の花を利用者と摘みに行き共有空間に飾ったり、壁に季節の絵を描いたり折り紙を折った物を貼り付けたりしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	多くの方がテレビを観ることが出来るように椅子を設置したり、ゆったりと話しができるようソファを設置したり、1人用のソファで1人の時間を過ごせたりと工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使いやすさや動線に配慮したり、本人が安心できるような物を置いたり工夫している。家族の面会時には、居室にてお茶を飲みながらゆっくりした時間を過ごせるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室、居室のネームプレート掲げて、1人で移動できるようにしている。椅子にネームシールを貼り、自分の椅子がわかるようにしている。また、大きな手作りの日めくりカレンダーを設置し、今日が何日であるかが分かるよう工夫している。日めくりカレンダー、利用者にやってもらう		